

Minami Kyushu University Syllabus							
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		環境園芸学科
科目名称 [英語名称]	建築学概論 [Architectonics]				実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング
科目コード	237710	授業形態	講義	単位数	2	配当学年	3年次
教員氏名	岡島 直方				学位授与の方針 との関連	DP1(2) DP2(2) DP3(4)	
授業概要	本講義は、日本建築とそれを支える文化的原点を学びます。原始時代から始めて、鎌倉時代の前項までの内容となります。各授業の終わりの時間を使って現代建築のデザインとそれを支える考え方なども提示し、取り扱う時代のバランスをとる予定です。また、建築のことだけでなく、絵画や彫刻などの内容も取り上げます。建築を建てるということは、社会活動において根源的な行為であると同時に、ものとしての姿を現すための機構の一つで、ものごとを始めていくため技術としてとらえます。こうした根源への認識とともに日本建築の歴史を探り、建築との関わりの中から庭がどのようにしてできたかという問いに回答を見いだすヒントが得られます。						
関連する科目	建築は庭園との関わりが深いので「世界の庭園と歴史」の授業をすでに受講してあることが望ましい。						
授業の進め方と方法	板書など知識の伝達においては、内容をノートに記録する必要があります。建物の図をかくこともあります。授業の終わりに、授業内容を元にして、要点をレポートにまとめてもらいます。聞きもしないようにはメモをとる必要があります。基本的知識の習得も大切であるため、建築要素の名称、用語などを中心に小テストで確認して覚えていきます。						
授業計画	<p>第1回: 建築学の体系、本講義の位置づけ 第2回: 建築と“architecture”の語源、建築学の草創期 本講義は独特な視点から建築を学ぶが、そのための基礎概念を説明する。</p> <p>第3回: 本講義の取り扱い範囲、原始時代の建築(竪穴住居、高床建築) 第4回: 神社建築(伊勢神宮) 第5回: 神社建築(伊勢神宮、出雲大社) 竪穴式住居からの関連した流れとして神社建築まで説明する。</p> <p>第6回: 神社建築、飛鳥時代(国家草創、仏教伝来) 第7回: 飛鳥時代の寺院概論 第8回: 飛鳥時代の寺院、法隆寺の細部装飾 第9回: 飛鳥時代の寺院、法隆寺の建物意匠 第10回: 神社の屋根の形状、寺院建築の源流、建築活動の三役割 第11回: 飛鳥時代から奈良時代へ(東大寺と空海) 仏教徒の係わりから通られた建築物について取り上げる。</p> <p>第12回: 垂木の種類、小屋裏構造 第13回: 扱首構造、垂木の洗練 第14回: 奈良時代から平安時代へ 第15回: 平安時代の建築と庭園</p>						
授業の到達目標	建築学の専門分野で造園と異なる特徴となっているのは、言語表現によって建築の意味を伝えていく活動である。本授業においては、建築における基本的知識の習得、建築要素の名称、用語を覚える。【専門分野の知識・理解】また建築空間の意味を論じてもらう機会を持つので、その際にある程度の分量で自分の感じることを文章として書くことが求められる。この機会を通じ自分の考えをまとめる能力を養う。さらに、取り扱い範囲の日本建築の特徴を他者に説明できるようになることに目標をおく。フリーハンドで描けることも大切である。【課題発見・分析・解決力】【高度な専門力】						
授業時間外の学修	授業終了後、次の授業までの間に1回はノートを開き、既に習った内容を思い出す時間を1時間はとること。宿題が課せられた場合は、時間を使って調べそれに回答して次の授業にのぞむこと。						
課題に対するフィードバック	語句などを記憶する小テスト、要点を言語化するレポートがある。これらは返却する際に、時宜に応じてコメントを付けて返す			評価方法	宿題もしくはレポート30点、小テスト20点、期末テストもしくは期末レポート50点		
テキスト	日本建築学会編『日本建築史図集』彰国社 授業中に配布するプリント						
参考書	井上充夫『日本建築史』理工図書 堀口捨己ほか『建築士』オーム社 など						
備考	授業中は板書の内容を書き写すだけでは不十分である。話された内容も素早くメモを取ることが必要である。						